

大問1 (A) 要約問題

次の英文の要旨を70字～80字の日本語にまとめよ。句読点も字数に含める。

Rumors spread by two different but overlapping processes: popular confirmation and in-group momentum. The first occurs because each of us tends to rely on what others think and do. Once a certain number of people appear to believe a rumor, others will believe it too, unless they have good reason to think it is false. Most rumors involve topics on which people lack direct or personal knowledge, and so most of us often simply trust the crowd. As more people accept the crowd view, the crowd grows larger, creating a real risk that large groups of people will believe rumors even though they are completely false.

In-group momentum refers to the fact that when like-minded people get together, they often end up believing a more extreme version of what they thought before. Suck on that members of processing group trying to accept the rumor about, say, the evil intentions of the a certain nation. In all likelihood, they will more become more committed to that rumor after they have spoken to each other. Indeed, they may move from being tentative believers to being absolutely certain, even though their only new evidence is what other members of the group believe. Consider the role of the internet here: when people see many tweets or posts from like-minded people, they are strongly inclined to accept a rumor as true.

What can be done to reduce the risk that these two processes will lead us to accept false rumors? The most obvious answer, and the standard one, involves the system of free expression: people should be exposed to balanced information and to corrections from those who know the truth. Freedom usually works, but in some contexts it is an incomplete remedy. People do not process information in a neutral way, and emotions often get in the way of truth. People take in new information in a very uneven way, and those who accepted false rumors do not easily give up their beliefs, especially when there are strong emotional commitments involved. It can be extremely hard to change what people think, even by presenting them with facts.

まずは対訳による全訳把握です。

第一段落

Rumors spread by two different but overlapping processes: popular confirmation and in-group momentum. 噂は、2つの、異なってはいるが部分的に重複するプロセスによって広まる。すなわち、大衆による承認と集団内の承認である。

(語句解説)

two A but B 名詞 2つのAではあるがBな～  
 popular 「人気のある」「大衆の」 ここでは後者の意味。  
 confirmation 承認  
 in-group グループ内の  
 momentum 「はずみ」「勢い」は普通の受験生は知らない単語です。でも、訳出する必要はないし、第二段落で説明している単語だから、内容はわかるはず。ここで動揺しないこと。繰り返すけど、日本語訳じゃないんだから。また、東大も「この単語知らなくても、説明されているから大丈夫だよ」と思って出題しているはず。無視。

The first occurs because each of us tends to rely on what others think and do. 最初のプロセスは、私達の一人ひとりが他人が考えたりしていることに依存する傾向にあるため、起きる。

(語句解説)

rely on ～を頼る、～に依存する

Once a certain number of people appear to believe a rumor, others will believe it too, unless they have good reason to think it is false. いちど一定数の人々がある噂を信じていると思われると、他人もそれを信じるものだ。それが嘘だと思ふ十分な理由がない限り。

(語句解説)

once 接続詞の once 「一端～すると」  
 appear to ～するらしい

unless 接続詞 「もし～しなければ」

Most rumors involve topics on which people lack direct or personal knowledge, and so most of us often simply trust the crowd.

ほとんどの噂は人々が直接または個人的な知識を欠くような話題に関係している。だから、私達の大部分は、しばしば容易に大勢の人々を信用してしまう。

(語句解説)

most 名詞 大部分の～  
involve ～を含む  
the crowd 群衆、大衆、大勢の人たち

As more people accept the crowd view, the crowd grows larger, creating a real risk that large groups of people will believe rumors even though they are completely false.

大衆の意見を受け入れる人が増えれば増えるほど、ますますその大衆の数は増していく。こうして、噂が完全に嘘であっても多数の人がうわさを信じるという現実の危険性は増していくのである。

(語句解説)

As 比較級、比較級 ～するにつれて、ますます～するようになる  
, creating 分詞構文。順接訳の分詞構文「そして、それは～を作っていくのである。」  
even though 譲歩を表す接続詞。「たとえ～でも」

第二段落

In-group momentum refers to the fact that when like-minded people get together, they often end up believing a more extreme version of what they thought before.

集団内の承認というのは、似たような考えの人が集まった時に、以前考えていたものよりももっと極端な噂をしまいには信じてしまうという事実のことを指す。

(語句解説)

In-group momentum refers to～。 「グループ内のモメンタムとは、～を指す言葉である。」ほらね、説明があるでしょ。

A refers to B AとはBを指す。  
the fact that 同格の that。 「～という事実。」  
get together 集まる  
end up doing 結局～してしまう

Suppose that members of certain group are inclined to accept the rumor about, say, the evil intentions of a certain nation.

ある集団内のメンバーが今、ある噂、たとえば、ある国家の悪意に満ちた考えという噂を信じる傾向にあると仮定してみよう。

(語句解説)

Suppose that ～と仮定してみよう。  
be inclined to ～する傾向にある  
say 例えば for example と同義。

In all likelihood, they will become more committed to that rumor after they have spoken to each other. 十中八九、お互いにこの噂について会話したあとで、この集団の人々はますますその噂にのめり込んでいく。

(語句解説)

in all likelihood 大体、十中八九、  
be committed to ～に係る、～に傾倒する、～にのめり込んでいく

Indeed, they may move from being tentative believers to being absolutely certain, even though their only new evidence is what other members of the group believe.

この時実際に、彼は一時的に噂を信じる人から、絶対的な確信を持った人々へ変化していくだろう。たとえ彼らの唯一の新しい証拠が、他のメンバーが信じていることであつたとしても、である。

(語句解説)

indeed 文頭の indeed は、米語では「確かに」。イギリス英語では「(前言を補足して) 実は、実際には」。東大の英語はイギリス英語が大半を占める。今回も噂の綴りが rumor という米語ではなく、rumour というイギリス英語であることから、わかる。リスニングの音声も、私が集中的に研究した10年前まではずっとイギリス発音であった。今はどうか、知らない。調べないとわからない。こんなところにも、他の新制大学とは一線を画すよ、という意気込みが表れていて、私は好きです。” Englishman in New York” というロックの名曲を思い出すよね。

may 推量の may。日本語にしていれば、ほとんど「だろう」でよいと思うよ。

move from A to B AからBへと変化する

being absolutely certain (believers) 「絶対的確信を持った信者」では堅いので上記のように訳した。

even though 以下 「新しい証拠がほとんどなくても、確信的に噂を信じるようになる」の意。

Consider the role of the internet here: when people see many tweets or posts from like-minded people, they are strongly inclined to accept a rumor as true.

ここでインターネットの役割を考えてみよう。例えば、同じ考えを持つ人々からのたくさんのツイートや投稿を人々が見たときに、その人たちは噂を真実だとみなすことに強く傾倒していく。

(語句解説)

the internet インターネットは、世界中の小さなネットワークを結んだ世界規模のたった1つのネット間ネットワークだから、普通は the Internet と固有名詞扱いするのだが、小文字で書くあたり、普通の小物のネットワーク扱いするあたり、やはり「米国が生んだインターネットなんか」というイギリス人の意識が透けて見えます。

第三段落

What can be done to reduce the risk that these two processes will lead us to accept false rumors? この2つの噂が広まるプロセスによって嘘の情報を私たちが信じるリスクを減らすために何ができるだろうか？

(語句解説)

the risk that 同格の that 「～という危険」

A lead B to do 直訳は「AがBに仕向けて～させる」という無生物主語構文(モノが人を動かす)ですが、「AによってBは～するようになる」と人を主語にすると収まりがよいよ。

accept 本来は「受け入れる」ですが、ここは「(噂を) 信じる」の意味でよい。

The most obvious answer, and the standard one, involves the system of free expression: people should be exposed to balanced information and to corrections from those who know the truth.

最も明白な答えは、そしてそれは一般的な解答でもあるのだが、とらわれのない心と行動様式を必要とするのである。つまり、人々はバランスの取れた情報に触れること、そして真実を知っている人からの訂正に触れることなのだ。

(語句解説)

A, and the standard one, the system of free expression 「Aつまり、標準的なものですが、」という解説ですよ。「AとB」という2つじゃなく。ここもわかりにくいね。直訳は「自由表現のシステム」。わからないね。誰にも。だから、コロンで説明してあるね。コロンとは「つまりね。わかりやすく言い換えるとね」という意味だから、わからないことは、後ろの説明を読みこむことだね。あなたにわからないことは、だれにもわからないんだよね。おそらく。そう思って、気楽に行こう。

でも、これじゃあまりに無責任なので、よく考えて後ろの説明を読み込むと、「とらわれのない行動様式」という意味でしょうね、おそらく。

those who ～する人々。

Freedom usually works, but in some contexts it is an incomplete remedy.

表現の自由はたいていの場合、うまくいく。しかし、いくつかの状況においては、それは不十分な解決法でもある。

(語句解説)

works うまく作動する

remedy 救済策、解決法

People do not process information in a neutral way, and emotions often get in the way of truth.  
というのも、人は中立的に情報を処理してはいない。しかも、感情が真実への道に立ちふさがることがよくある。

(語句解説)

get in the way of 「～の道に入り込む」 比喩表現。「～を邪魔をする」

People take in new information in a very uneven way, and those who accepted false rumors do not easily give up their beliefs, especially when there are strong emotional commitments involved.

人はかなり偏ったやり方で新しい情報を取り込む。嘘の噂を信じる人は、容易に自分の考えをあきらめたりしないものだ。とりわけ、強い感情移入が起きているときは、なおさらそうである。

(語句解説)

take in 取り込む

in a very uneven way とても公平とは言えないやり方で。つまり、先入観を持って情報を取り込んでしまうこと。

give up 諦める、放棄する

there are S done 「there 構文の変形」で there is S doing は進行形と同じ S is doing (Sは～している) と訳す。同様に there is S done は、「Sが～されている」と訳す。どうして there 構文になっているか？  
そういう状態が存在するってことを、加えて言いたいってこと。でも、無視。

It can be extremely hard to change what people think, even by presenting them with facts.

だから、人が考えていることを変えるのは、たとえ彼らに事実を示したとしても、非常に困難なことだといえる。

(語句解説)

present A with B AにBを与える

(勉強の仕方)

- ・ 語句レベル 受験生として知っておくべき基本的なものがほとんどです。単語集で言えば4500語レベルで十分でしょう。無理に増やす必要はなく、こうしたレベルの抽象的な評論を読みこなすと、かなり単語力がつきますから安心してください。
- ・ 文法力 やはり高校三年生までの文法力で大丈夫です。
- ・ 内容 難関大学用の長文問題で練習することが必要です。特に評論を読み込むこと。
- ・ 要約力 これだけは数多く練習しないとコツがつかめません。要約の作り方を知っていても、このレベルの文章を極端に短くするのは、練習しか克服法はありません。少し泳げるようになった人に、ドーバー海峡を横断しなさい、と言っているようなもの。100題ぐらいやれば誰でも慣れるでしょう。(笑)

(解答の作り方)

- ・ 段落ごとに要旨を30字程度で書くようにします。三段落ありますから、それですでに90字です。
- ・ 決して字数オーバーしてはいけません。80字以上、90字以内であることが条件です。
- ・ 一度書き出してみて、それを詰めていくといいでしょう。

(解答のステップ)

初稿作り：

まず「要約の作り方」の原則に従って、字数をあまり気にせず作ってみる。要約は、段落ごとの主題文(キーセンテンス)を抜き出して作る。具体例や説明は削除する。

第一段落

噂は、大衆の承認と集団内のはずみで広まる。大衆による承認とは、他人の信じることを人は信じる傾向にあるからだ。(54字)

第二段落

集団内の勢いとは、一定数の人が信じると、集団内の他の人もつられて信じるようになることだ。(44字)

第三段落

嘘の噂を信じないようにするには、バランスのとれた情報や真実を知る人からの訂正を受け入れる自由な心と態

度が必要だ。しかし、人は情報に公平に接する訳でもなく、感情が邪魔をするので、考えを変えるのは実は難しいことなのだ。(107字)

字数調整解答を作る：

およそ200字もあるので、約半減させなきゃいけない。東大の要約はいつもこうだ。骨が折れる。日本語を縮約していこう。外せないのは、第三段落だ。だから、第一と第二を思い切って切り詰める。

(第1と第2)

噂は、他人への同調作用と集団内の強化によって広まる。(26字)

(第3段落)

誤った噂を信じないようにするには、多様な情報に接し、他人の訂正を受けることが必要だが、情報への接し方や感情等が影響し、考えを変えるのは実は難しい。(74字)

これでも100字あり、10字を削る。もう削りに削るのである。

(第1と第2)

「噂は大衆への同調と集団内の強化で広まる。(20字)

(第3段落)

噂を簡単に信じないようにするには、多様な情報に接し、他からの訂正を受け入れる態度が必要だが、偏った情報や感情の影響で、考えを変えるのは困難だ。(71字)」

91字！ダメです。1字オーバーしています。何度も読み込んで、字数を削ります。

最終解答：

「噂は大衆への同調と集団内の強化で広まる。(20字)

噂を簡単に信じないようにするには、多様な情報に接し、他からの訂正を受け入れる態度が必要だが、偏った情報や感情の影響で、実は困難だ。(65字)」

合計85字です。なんと制限内に収まりました。

東大の要約問題は、このように極端に短い要約ですので、長い主題文をバツサリと切って、漢語を使って縮約しないと表現仕切れません。がんばりましょう。